

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 □住宅 ()
 〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 (補助金) □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ()
 〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 (建物状況) □新築 □増築 □改修 ■一部改修 □既存
 〔対象者〕 ■高齢者 □障がい者 □子ども □ファミリー □多世代



図1. 建物外観

吾妻さくら病院 介護医療院は2018年10月に群馬県で2番目に設立された介護医療院である。介護医療院に転換するにあたってフロア全体を大規模改修しており、談話スペースを設けるなど入居者が自分の能力に合わせて生活できるように支援を行っている。医療と介護を同じ施設で受けられるため入居者が安心して生活できる場になっている。

■見学詳細

日時 : 2019年5月15日 14時~15時30分

見学者: 宮岡、押尾

■施設概要

所在地 : 茨城県龍ヶ崎市馴柴町 1-15-1

運営事業者 : 医療法人 竜仁会

病院開設年 : 昭和63年

介護医療院開設年 : 平成30年8月

転換前 : 介護療養病床、介護医療院Ⅱ型への転換

敷地面積 : 3136.3㎡

延べ床面積 : 5183.47㎡

構造規模 : 地上4階

設備・諸室 : 厨房、機械浴、リハビリ室

併設施設等 : 吾妻さくら病院 (内科・外科・循環器科・胃腸科・糖尿病内科・整形外科・心療内科・リハビリテーション科・人工透析内科・放射線科)

定員数 : 47床

居室 : 個室 8部屋、2床室 1部屋
3床室 3部屋、4床室 7部屋

入居者の平均年齢: 82歳

平均要介護度: 4

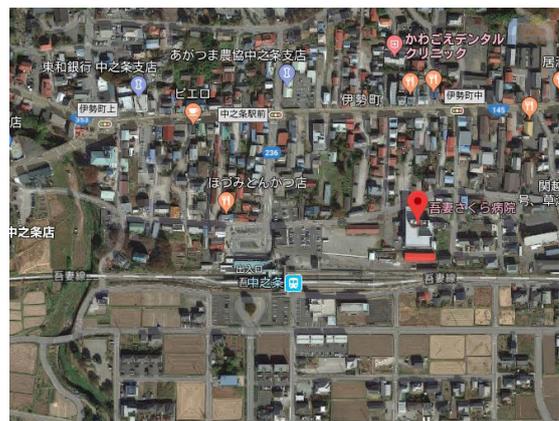


図2. 周辺状況 (Google Map より)

JR吾妻線中之条駅から徒歩1分と非常にアクセスが良い。しかし電車は1時間に1本程度で遠方からのアクセスは悪い。入居者のほとんどは近隣地区からが多い。



図3. ナースステーション

改修に伴い、壁で閉じていたナースステーションをオープンにし、入居者の見守りをしやすくした。



図4. 談話室

エレベータ前の病室の壁をなくし、談話室を設けた。エレベータを降りてから外の景色が見える為開放的な印象を受ける。また、ナースステーションからも見守りがしやすい位置にある為、スタッフの方が入居者の様子を把握しやすい。



図5. 廊下

廊下の手すりを使って歩行のリハビリをする入居者もいる。また、突き当りの窓から外を眺める入居者も見られた。



図6. 二床室

■運営概要

2018年現在、介護療養病床の廃止に伴い、医療依存度が高く介護施設にも入れないよう介護高齢者の退院先の確保が喫緊の課題となっており、その課題を解決すべく生まれた、住まいと生活を医療が支える新たなモデルが介護医療院である。吾妻さくら病院 介護医療院は介護療養病床を介護医療院に転換した事例であり、群馬県内で2事例目である。

吾妻さくら病院では内科や外科、整形外科、リハビリテーション科など幅広く診療を行っており、入居者の体調の変化や家族の意思に合わせて医療療養病床での治療も行っている。また、訪問診療も行っているため、介護医療院から在宅へ戻った方の経過観測ができ、地域に根差して医療と介護一体のケアを行っている。

■建物について

建物は地上4階建てで、1階が外来、2階が透析室・浴室、3階が医療療養病棟、4階が介護医療院である。居室は個室、2床室、3床室、4床室があり、3床室は1.2.4床室と比較すると狭いつくりである。そのため、入居者の自立度等に合わせて、寝たきりでストレッチャー移動の方は介助がしやすいように広めの3.4床室に入居してもらうなど使い分けている。また、基本的には居室内のレイアウトは入居者に合わせて自由に使用しており、ベッドの向きなどは居室によって様々である（主に個室）。介護医療院への転換にあたり、パーティションを設置したが、これにより廊下側のベッドへ日光が入りにくく、暗くなってしまうので、パーティションは天井面から3-40cm程度が板でふさがれていないものを採用している。また、パーティションの設置によりストレッチャーを入れにくいなどの介助面の使いにくさはある。

吾妻さくら病院は介護医療院への転換にあたり病院内を大規模改修を行っている。介護医療院が入っている4階の主な改修点は①廊下を拡幅する、②閉塞的だったナースステーションをオープンにする、③EV前の病室の壁を取り払い、病室ではなく談話ができるスペースにする、である。特に談話スペースは日々のレクリエーションやクラブ活動、離床できる方の食事のスペース、スタッフの打ち合わせの場などとして使われている。このような談話スペースがあると入居者が集まってきて入居者同士・

スタッフとの交流の場にもなり、スタッフが見守りやすいという利点がある。

■ターミナル期について

介護医療院の特徴のひとつである「看取り」を同施設でも行っている。ターミナル期に使える特別な居室は設けていないが、ターミナル期になると基本的には個室に移ってもらい、モニター管理を行っている。そのため個室に入居する方にはターミナル期の入居者がいるときには居室を移ってもらう必要があることをあらかじめ説明している。また、入居者家族については希望があれば簡易ベッドを用意し、入居者のベッドサイドで寝泊りをしてもらうことが可能である。

4階の介護医療院は時間帯によってはにぎわっていることがあるため、入居者の死後は落ち着いて過ごしてもらえるように2Fの霊安室を使用している。

■介護医療院になるにあたって

吾妻さくら病院は介護療養病床の廃止がきっかけで介護医療院へ転換した。老建への転換も候補にあったが、地域に老建がすでに2施設あること、老建の入居が3ヶ月と期限があることより、老建ではなく、介護医療院への転換を決めた。介護医療院にしたことにより、1箇所介護・医療の一貫したサービスを提供できるため充実したケアを提供できる。生活施設としての意識はあるが、ユニット型の特養と比較するとハード面での劣りはあるが、入居者の体調に変化があったときでもスピーディに対応できることに利点を感じている。

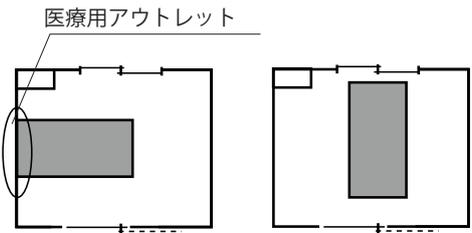


図7. 個室平面図

酸素吸入等を必要としている入居者は医療用アウトレットの位置によってベッドの向きは決まってしまうが、基本的には入居者の好みによってベッドの向きは変えている。

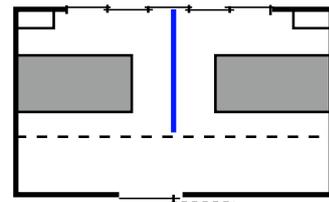


図8. 2床室平面図

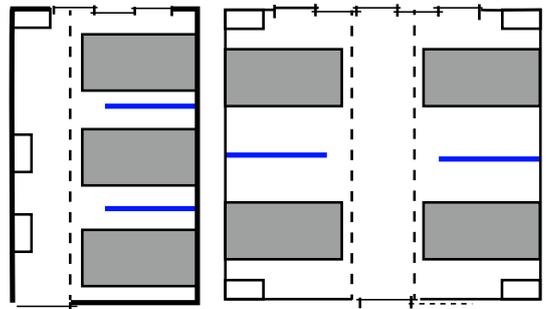


図9. 3床室平面図

図10. 4床室平面図

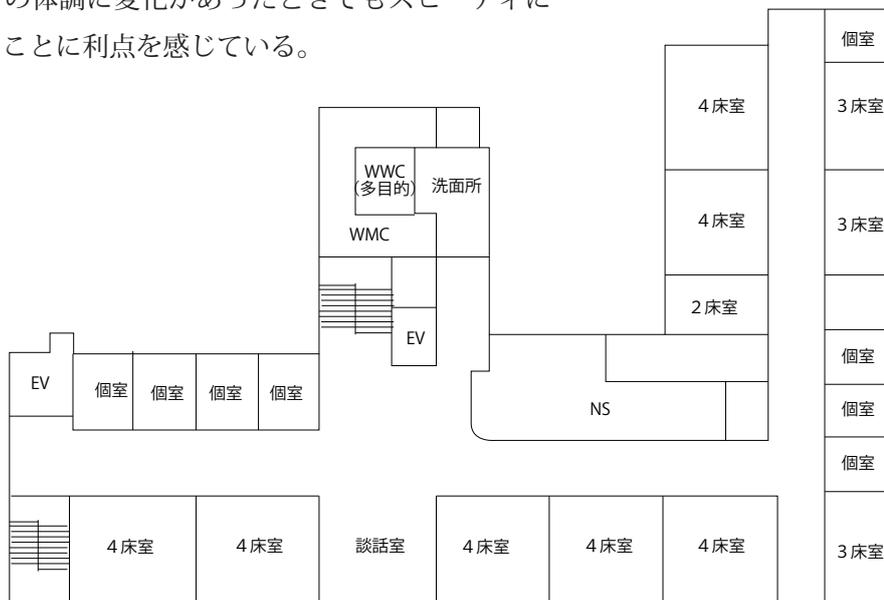
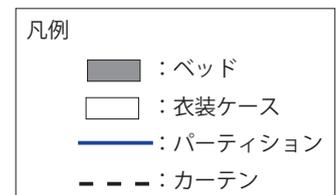


図6. 4階平面図